

# 1 素材需給の動向

## (1) 素材需要量

令和6年の素材需要量は2,247万2千 $m^3$ で、前年に比べ119万7千 $m^3$  (5.1%) 減少した。

これを需要部門別にみると、製材用は1,442万8千 $m^3$ で、前年に比べ63万3千 $m^3$  (4.2%)、木材チップ用は385万6千 $m^3$ で、同61万5千 $m^3$  (13.8%) それぞれ減少し、合板等用は418万8千 $m^3$ で、同5万1千 $m^3$  (1.2%) 増加した。

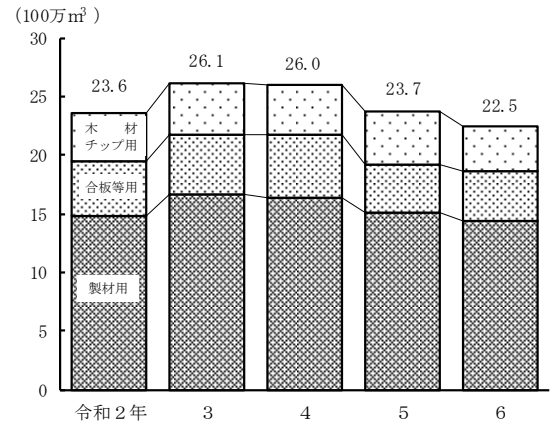
この結果、需要部門別の構成割合は、製材用が64.2%、合板等用が18.6%、木材チップ用が17.2%となった(表1、図1)。

表1 需要部門別素材需要量

区 分	計	製材用	合板等用	単 位 : 千 $m^3$
				木 材 チ ッ プ 用
令和5年	23,669	15,061	4,137	4,471
6	22,472	14,428	4,188	3,856
対前年比 (%)	94.9	95.8	101.2	86.2
構 成 比 (%)				
令和5年	100.0	63.6	17.5	18.9
6	100.0	64.2	18.6	17.2

注：1 本調査においては、製材工場、合板工場及び木材チップ工場への素材の入荷量をもって素材需要量としている。  
2 数値及び構成比については、表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致しない場合がある(以下の図表において同じ。)

図1 素材需要量の推移



## (2) 素材供給量

素材供給量のうち、国産材は1,976万3千 $m^3$ で、前年に比べ88万4千 $m^3$  (4.3%)、輸入材は270万9千 $m^3$ で、同31万3千 $m^3$  (10.4%) それぞれ減少した。

この結果、素材供給量に占める国産材の割合は87.9%で、前年に比べ0.7ポイント上昇した(表2、図2)。

図2 素材供給量及び国産材供給割合の推移

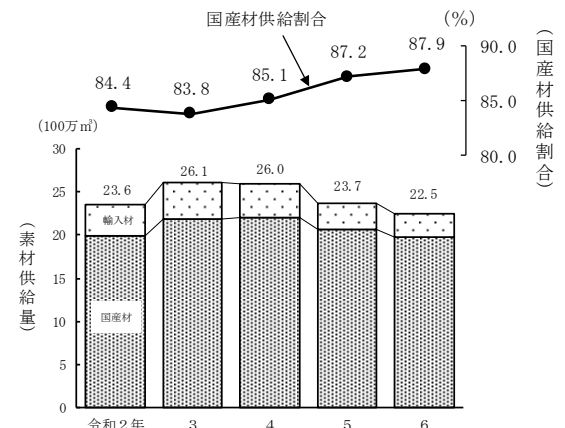


表2 需要部門別、材種別素材供給量

区 分	計	国 産 材			輸 入 材						単 位 : 千 $m^3$
		小計	針葉樹	広葉樹	小計	南洋材	米材	北洋材	ニュージ ランド材	その他	
令和5年											
計	23,669	20,647	18,926	1,721	3,022	44	2,495	122	309	52	
製材用	15,061	12,271	12,185	86	2,790	x	2,282	122	305	x	
合板等用	4,137	3,909	3,889	20	228	x	x	-	x	x	
木材チップ用	4,471	4,467	2,852	1,615	4	-	x	-	x	-	
令和6年											
計	22,472	19,763	18,398	1,365	2,709	19	2,202	125	293	70	
製材用	14,428	11,956	11,870	86	2,472	19	1,981	125	290	57	
合板等用	4,188	3,951	3,931	20	237	-	221	-	3	13	
木材チップ用	3,856	3,856	2,597	1,259	0	-	-	-	0	-	
対前年比 (%)											
計	94.9	95.7	97.2	79.3	89.6	43.2	88.3	102.5	94.8	134.6	
製材用	95.8	97.4	97.4	100.0	88.6	x	86.8	102.5	95.1	x	
合板等用	101.2	101.1	101.1	100.0	103.9	x	x	nc	x	x	
木材チップ用	86.2	86.3	91.1	78.0	0.0	nc	x	nc	x	nc	
構成比 (%)											
計	100.0	87.9	81.9	6.1	12.1	0.1	9.8	0.6	1.3	0.3	
製材用	100.0	82.9	82.3	0.6	17.1	0.1	13.7	0.9	2.0	0.4	
合板等用	100.0	94.3	93.9	0.5	5.7	-	5.3	-	0.1	0.3	
木材チップ用	100.0	100.0	67.3	32.7	0.0	-	-	-	0.0	-	

注：本調査においては、素材需要量(製材工場、合板工場及び木材チップ工場への素材の入荷量)をもって素材供給量としている(以下、表3及び表4の統計表まで同じ。)

ア 国産材供給量

国産材供給量（全国計のみ素材生産量と等しい。）を針葉樹、広葉樹別にみると、針葉樹は1,839万8千m<sup>3</sup>で、前年に比べ52万8千m<sup>3</sup>（2.8%）減少した。

これを樹種別にみると、素材供給量の約6割を占めるすぎは1,171万6千m<sup>3</sup>で、前年に比べ20万1千m<sup>3</sup>（1.7%）、ひのきは301万9千m<sup>3</sup>で、同16万1千m<sup>3</sup>（5.1%）、からまつは173万3千m<sup>3</sup>で、同10万4千m<sup>3</sup>（5.7%）、えぞまつ・とどまつは123万9千m<sup>3</sup>で、同2千m<sup>3</sup>（0.2%）、あかまつ・くろまつは45万9千m<sup>3</sup>で、同3万5千m<sup>3</sup>（7.1%）それぞれ減少した。

また、広葉樹は136万5千m<sup>3</sup>で、前年に比べ35万6千m<sup>3</sup>（20.7%）減少した（表3、図3）。

図3 樹種別素材供給量の推移

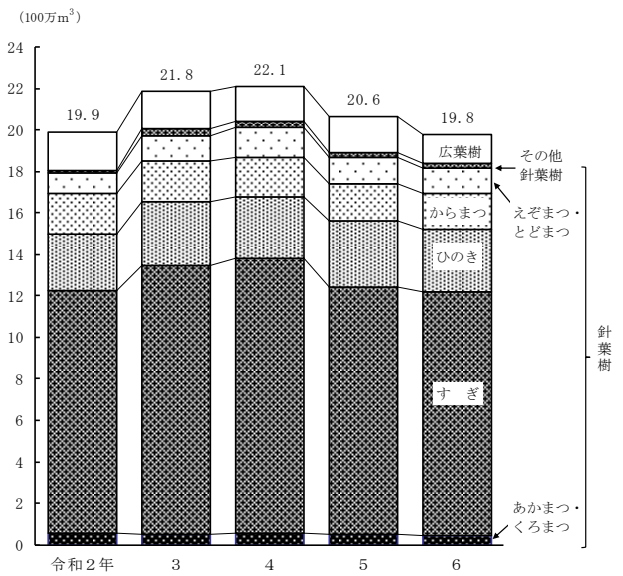


表3 需要部門別、樹種別素材供給量

区 分	計	針 葉 樹							広 葉 樹	単位：千m <sup>3</sup>
		小 計	あかまつ・くろまつ	す ぎ	ひのき	からまつ	えぞまつ・とどまつ	その他		
令和5年										
計	20,647	18,926	494	11,917	3,180	1,837	1,241	257	1,721	
製 材 用	12,271	12,185	74	8,120	2,320	824	801	46	86	
合 板 等 用	3,909	3,889	152	2,163	622	731	200	21	20	
木 材 チ ッ プ 用	4,467	2,852	268	1,634	238	282	240	190	1,615	
令和6年										
計	19,763	18,398	459	11,716	3,019	1,733	1,239	232	1,365	
製 材 用	11,956	11,870	59	8,088	2,221	735	724	43	86	
合 板 等 用	3,951	3,931	149	2,270	552	724	213	23	20	
木 材 チ ッ プ 用	3,856	2,597	251	1,358	246	274	302	166	1,259	
対前年比(%)										
計	95.7	97.2	92.9	98.3	94.9	94.3	99.8	90.3	79.3	
製 材 用	97.4	97.4	79.7	99.6	95.7	89.2	90.4	93.5	100.0	
合 板 等 用	101.1	101.1	98.0	104.9	88.7	99.0	106.5	109.5	100.0	
木 材 チ ッ プ 用	86.3	91.1	93.7	83.1	103.4	97.2	125.8	87.4	78.0	
構成比(%)										
計	100.0	93.1	2.3	59.3	15.3	8.8	6.3	1.2	6.9	
製 材 用	100.0	99.3	0.5	67.6	18.6	6.1	6.1	0.4	0.7	
合 板 等 用	100.0	99.5	3.8	57.5	14.0	18.3	5.4	0.6	0.5	
木 材 チ ッ プ 用	100.0	67.3	6.5	35.2	6.4	7.1	7.8	4.3	32.7	

イ 輸入材供給量

輸入材供給量を産地材別にみると、輸入材の約8割を占める米材は220万2千m<sup>3</sup>で、前年に比べ29万3千m<sup>3</sup>（11.7%）、ニュージーランド材は29万3千m<sup>3</sup>で、同1万6千m<sup>3</sup>（5.2%）、南洋材は1万9千m<sup>3</sup>で、同2万5千m<sup>3</sup>（56.8%）それぞれ減少し、北洋材は12万5千m<sup>3</sup>で、同3千m<sup>3</sup>（2.5%）増加した（表4、図4）。

また、製材用素材の輸入材のうち半製品入荷量は20万2千m<sup>3</sup>で、前年に比べ2万m<sup>3</sup>（11.0%）増加した（表5）。

図4 輸入材供給量の推移

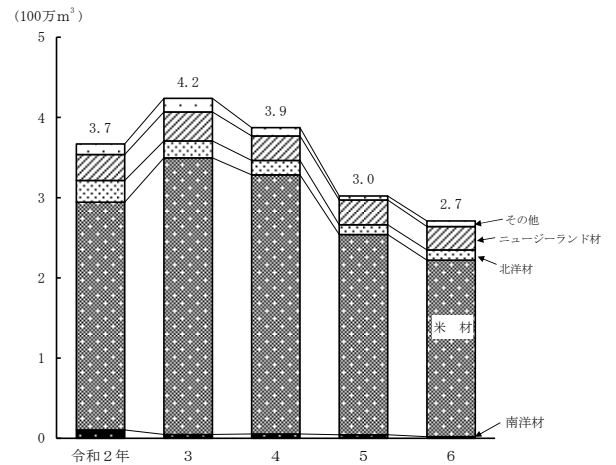


表4 輸入材供給量

区分	計	南洋材	米材	北洋材	ニュージーランド材	その他
令和5年	3,022	44	2,495	122	309	52
6	2,709	19	2,202	125	293	70
対前年比 (%)	89.6	43.2	88.3	102.5	94.8	134.6
構成比 (%)						
令和5年	100.0	1.5	82.6	4.0	10.2	1.7
6	100.0	0.7	81.3	4.6	10.8	2.6

表5 製材用素材の輸入材のうち半製品入荷量

区分	計	南洋材	米材	北洋材	ニュージーランド材	その他
令和5年	182	6	31	106	11	28
6	202	1	47	106	9	39
対前年比 (%)	111.0	16.7	151.6	100.0	81.8	139.3
構成比 (%)						
令和5年	100.0	3.3	17.0	58.2	6.0	15.4
6	100.0	0.5	23.3	52.5	4.5	19.3

## 2 木材産業の動向

### (1) 製材

#### ア 製材工場数及び製材用動力の出力数

製材工場数は3,547工場で、前年に比べ202工場(5.4%)減少した。

これを製材用動力の出力階層別にみると、1,000.0kW以上の階層で前年と同数、それ以外の階層では減少した。

製材用動力の総出力数は60万6,434kWで、前年に比べ2万657kW(3.3%)減少した。

1工場当たりの出力数は171.0kWで、前年に比べ3.7kW(2.2%)増加した(表6、図5)。

表6 製材工場数及び製材用動力の出力数(各年12月31日現在)

区分	単位	令和5年	6	対前年比	構成比
				%	%
工場数計	工場	3,749	3,547	94.6	100.0
7.5~75.0kW未満	〃	2,131	1,991	93.4	56.1
75.0~300.0	〃	1,180	1,135	96.2	32.0
300.0kW以上	〃	438	421	96.1	11.9
うち1,000.0kW以上	〃	85	85	100.0	2.4
総出力数	kW	627,091	606,434	96.7	-
1工場当たり出力数	〃	167.3	171.0	102.2	-

#### イ 製材用素材消費量

製材用素材消費量は1,471万m<sup>3</sup>で、前年に比べ42万6千m<sup>3</sup>(2.8%)減少した。

1工場当たりの素材消費量は4,147m<sup>3</sup>で、前年に比べ83m<sup>3</sup>(2.0%)増加した(表7、図6)。

表7 製材用動力の出力階層別素材消費量

区分	単位	令和5年	6	対前年比	構成比
				%	%
計	千m <sup>3</sup>	15,136	14,710	97.2	100.0
7.5~75.0kW未満	〃	579	509	87.9	3.5
75.0~300.0	〃	2,707	2,624	96.9	17.8
300.0kW以上	〃	11,850	11,577	97.7	78.7
うち1,000.0kW以上	〃	5,989	5,633	94.1	38.3
1工場当たり消費量	m <sup>3</sup>	4,064	4,147	102.0	-

図5 製材工場の出力階層別構成割合(令和6年)

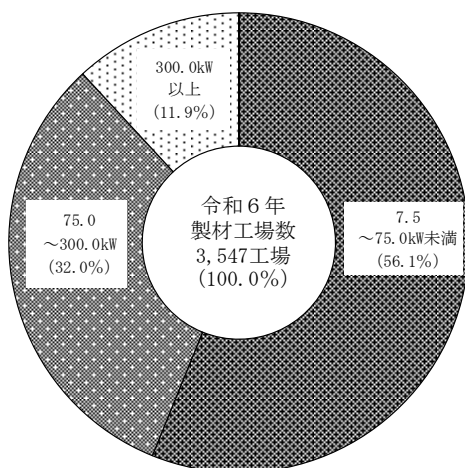
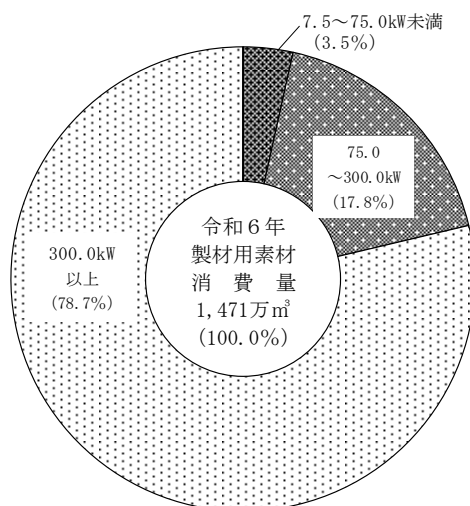


図6 製材用素材消費量の出力階層別構成割合(令和6年)



ウ 製材用素材入荷量

(ア) 製材用素材入荷量は、1,442 万 8 千<sup>3</sup>m<sup>3</sup>で、前年に比べ 63 万 3 千<sup>3</sup>m<sup>3</sup> (4.2%) 減少した。

これを国産材、輸入材別にみると、国産材の入荷量は 1,195 万 6 千<sup>3</sup>m<sup>3</sup>で、前年に比べ 31 万 5 千<sup>3</sup>m<sup>3</sup> (2.6%)、輸入材の入荷量は 247 万 2 千<sup>3</sup>m<sup>3</sup>で、同 31 万 8 千<sup>3</sup>m<sup>3</sup> (11.4%) それぞれ減少した。

この結果、製材用素材入荷量に占める国産材の割合は 82.9%で、前年に比べ 1.4 ポイント上昇した (表 8、図 7)。

図 7 製材用素材入荷量及び国産材割合の推移

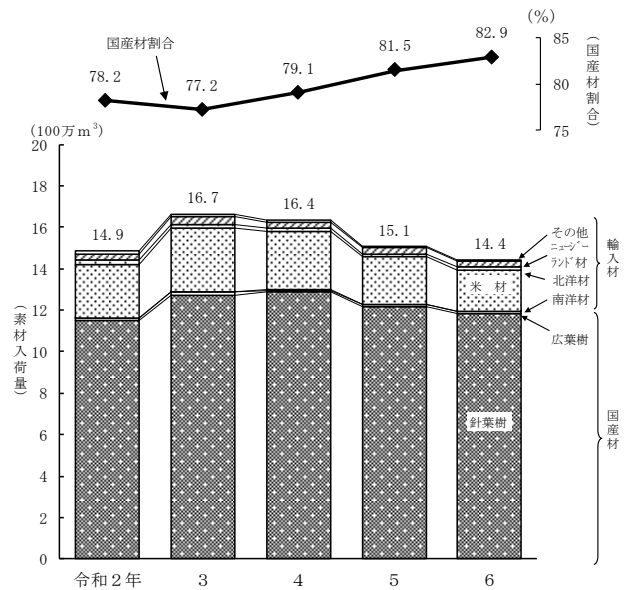


表 8 材種別製材用素材入荷量

区 分	計	国 産 材			輸 入 材					
		小計	針葉樹	広葉樹	小計	南洋材	米材	北洋材	ニューズランド材	その他
令和5年	15,061	12,271	12,185	86	2,790	x	2,282	122	305	x
6	14,428	11,956	11,870	86	2,472	19	1,981	125	290	57
対前年比 (%)	95.8	97.4	97.4	100.0	88.6	x	86.8	102.5	95.1	x
構成比 (%)										
令和5年	100.0	81.5	80.9	0.6	18.5	x	15.2	0.8	2.0	x
6	100.0	82.9	82.3	0.6	17.1	0.1	13.7	0.9	2.0	0.4

注：本調査においては、製材用素材入荷量は製材用の素材需要量（素材供給量）としているため一致する。

(イ) 素材の入荷があった製材工場は 3,492 工場で、前年に比べ 230 工場 (6.2%) 減少した。

これを入荷類型別にみると、国産材のみは 3,013 工場で、前年に比べ 103 工場 (3.3%)、国産材と輸入材は 386 工場、同 125 工場 (24.5%)、輸入材のみは 93 工場、同 2 工場 (2.1%) それぞれ減少した。

入荷量でみると、国産材のみは 1,081 万 4 千<sup>3</sup>m<sup>3</sup>で、前年に比べ 31 万 9 千<sup>3</sup>m<sup>3</sup> (2.9%)、輸入材のみは 61 万 3 千<sup>3</sup>m<sup>3</sup>で、同 63 万 3 千<sup>3</sup>m<sup>3</sup> (50.8%) それぞれ減少し、国産材と輸入材は 300 万 1 千<sup>3</sup>m<sup>3</sup>で、同 31 万 9 千<sup>3</sup>m<sup>3</sup> (11.9%) 増加した (表 9)。

表 9 製材用動力の入荷類型別製材工場数及び入荷量

区 分	計		国産材のみ		国産材と輸入材		輸入材のみ	
	工場数	入荷量	工場数	入荷量	工場数	入荷量	工場数	入荷量
令和5年	3,722	15,061	3,116	11,133	511	2,682	95	1,246
6	3,492	14,428	3,013	10,814	386	3,001	93	613
対前年比 (%)	93.8	95.8	96.7	97.1	75.5	111.9	97.9	49.2
構成比 (%)								
令和5年	100.0	100.0	83.7	73.9	13.7	17.8	2.6	8.3
6	100.0	100.0	86.3	75.0	11.1	20.8	2.7	4.2

注：工場数は、製材用素材の入荷のあった工場数である。

エ 製材品出荷量

製材品出荷量は760万3千 $m^3$ で、前年に比べ36万2千 $m^3$ （4.5%）減少した。

これを用途別にみると、約8割を占める建築用材は620万4千 $m^3$ で、前年に比べ28万 $m^3$ （4.3%）、土木建設用材は29万4千 $m^3$ で、同2万6千 $m^3$ （8.1%）、木箱仕組板・こん包用材は87万9千 $m^3$ で、同5万 $m^3$ （5.4%）、家具建具用材は4万 $m^3$ で同1万3千 $m^3$ （24.5%）それぞれ減少した。

また、人工乾燥材出荷量は384万6千 $m^3$ で、前年に比べ15万9千 $m^3$ （4.0%）減少した。

製材品出荷量に占める人工乾燥材出荷量の割合は50.6%で、前年に比べ0.3ポイント上昇した（表10、図8、図9）。

図8 用途別製材品出荷量の推移

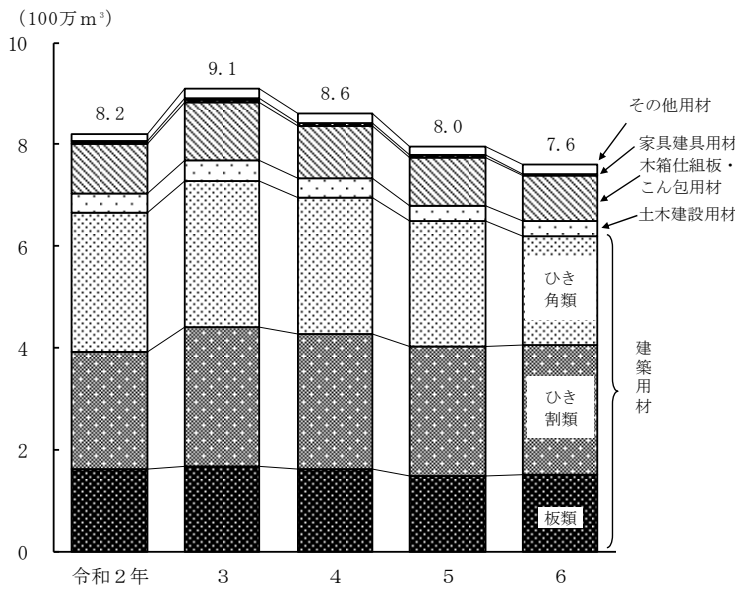


図9 人工乾燥材出荷量及び製材品出荷量に占める人工乾燥材出荷量の割合の推移

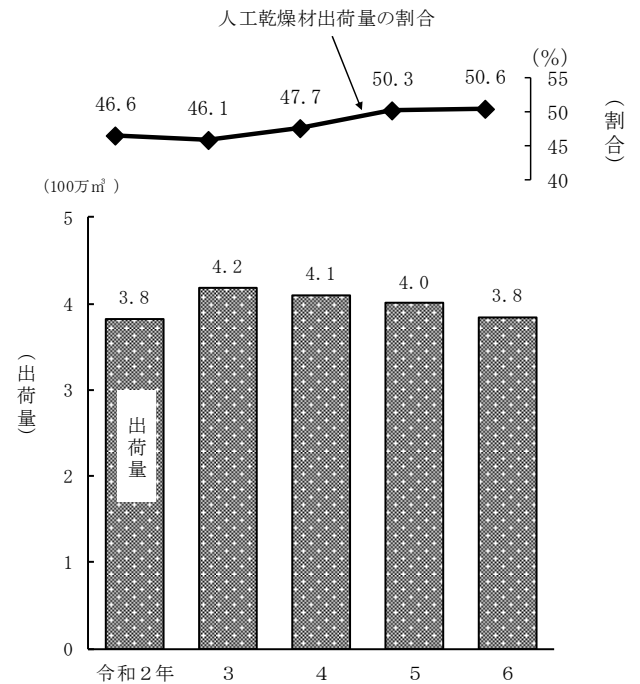


表10 用途別製材品出荷量

区分	単位: 千 $m^3$									
	計	建築用材					土木建設用材	木箱仕組板・こん包用材	家具建具用材	その他用材
		人工乾燥材	小計	板類	ひき割類	ひき角類				
令和5年	7,965	4,005	6,484	1,475	2,561	2,448	320	929	53	179
6	7,603	3,846	6,204	1,517	2,540	2,147	294	879	40	186
対前年比 (%)	95.5	96.0	95.7	102.8	99.2	87.7	91.9	94.6	75.5	103.9
構成比 (%)										
令和5年	100.0	50.3	81.4	18.5	32.2	30.7	4.0	11.7	0.7	2.2
6	100.0	50.6	81.6	20.0	33.4	28.2	3.9	11.6	0.5	2.4

(2) 合単板及びLVL

ア 合単板工場数

合単板工場数は154工場で、前年に比べ10工場(6.1%)減少した。

これを工場類型別にみると、「普通合板と特殊合板」を生産している工場は前年に比べ1工場(25.0%)、「特殊合板のみ」を生産している工場は同9工場(8.8%)それぞれ減少し、「単板のみ」を生産している工場と「普通合板のみ」を生産している工場は前年と同数であった(表11)。

表11 工場類型別合単板工場数(各年12月31日現在)

単位：工場					
区分	計	単板のみ	普通合板のみ	普通合板と特殊合板	特殊合板のみ
令和5年	164	27	31	4	102
6	154	27	31	3	93
対前年比(%)	93.9	100.0	100.0	75.0	91.2
構成比(%)					
令和5年	100.0	16.5	18.9	2.4	62.2
6	100.0	17.5	20.1	1.9	60.4

イ 単板製造用素材入荷量

単板製造用素材の入荷量は418万8千m<sup>3</sup>で、前年に比べ5万1千m<sup>3</sup>(1.2%)増加した。

これを国産材、輸入材別にみると、国産材は395万1千m<sup>3</sup>で、前年に比べ4万2千m<sup>3</sup>(1.1%)、輸入材は23万7千m<sup>3</sup>で同9千m<sup>3</sup>(3.9%)それぞれ増加した。

この結果、単板製材用素材入荷量に占める国産材の割合は94.3%となり、前年に比べ0.2ポイント低下した(表12、図10)。

図10 単板製造用素材入荷量及び国産材割合の推移

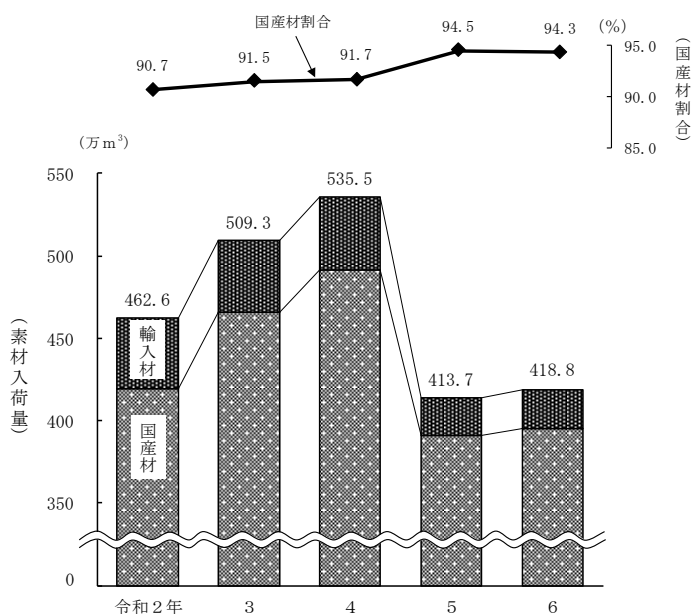


表12 材種別単板製造用素材入荷量

単位：千m <sup>3</sup>												
区分	計	国産材			輸入材							
		小計	針葉樹	広葉樹	小計	針葉樹	南洋材	米材	北洋材	ニュージューランド材	その他	
令和5年	4,137	3,909	3,889	20	228	185	x	x	-	x	x	
6	4,188	3,951	3,931	20	237	198	-	221	-	3	13	
対前年比(%)	101.2	101.1	101.1	100.0	103.9	107.0	x	x	nc	x	x	
構成比(%)												
令和5年	100.0	94.5	94.0	0.5	5.5	4.5	x	x	-	x	x	
6	100.0	94.3	93.9	0.5	5.7	4.7	-	5.3	-	0.1	0.3	

注：本調査においては、単板製造用素材入荷量は合板等用(合板用及びLVL用)の素材需要量(素材供給量)と一致する。

ウ 単板消費量

単板消費量は322万5千 $m^3$ で、前年に比べ35万2千 $m^3$  (9.8%) 減少した。

これを用途別にみると、合板用は296万1千 $m^3$ で、前年に比べ25万9千 $m^3$  (8.0%)、LVL用は26万4千 $m^3$ で、同9万3千 $m^3$  (26.1%) それぞれ減少した (表13)。

表13 単板消費量

単位：千 $m^3$			
区 分	計	合板用	LVL用
令和5年	3,577	3,220	357
6	3,225	2,961	264
対前年比 (%)	90.2	92.0	73.9
構 成 比 (%)			
令和5年	100.0	90.0	10.0
6	100.0	91.8	8.2

エ 普通合板生産量

普通合板生産量は250万6千 $m^3$ で、前年に比べ2万6千 $m^3$  (1.0%) 減少した。

このうち、針葉樹合板生産量は245万 $m^3$ で、前年に比べ3万1千 $m^3$  (1.2%) 減少した。

また、厚さ別にみると、「6~12mm」は39万3千 $m^3$ で、前年に比べ1万2千 $m^3$  (3.0%)、「24mm以上」は95万9千 $m^3$ で、同4万2千 $m^3$  (4.2%) それぞれ減少し、「6mm未満」は3万4千 $m^3$ で、同5千 $m^3$  (17.2%)、「12~24mm」は112万 $m^3$ で同2万3千 $m^3$  (2.1%) それぞれ増加した (表14、図11)。

図11 普通合板生産量及び針葉樹合板割合の推移

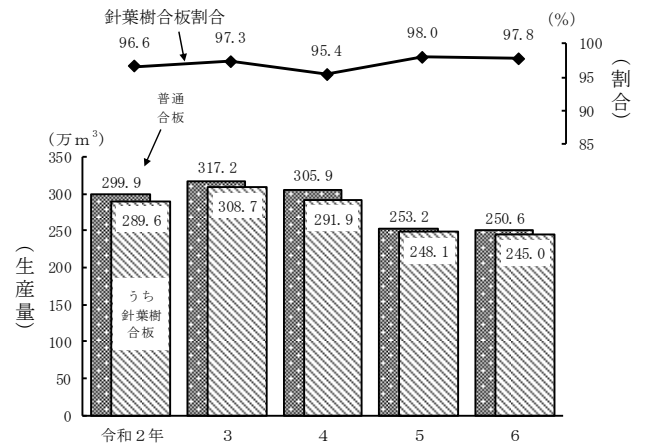


表14 普通合板生産量

区 分	令和5年	6	対前年比	構成比
	千 $m^3$	千 $m^3$	%	%
普通合板生産量	2,532	2,506	99.0	100.0
6mm未満	29	34	117.2	1.4
6~12	405	393	97.0	15.7
12~24	1,097	1,120	102.1	44.7
24mm以上	1,001	959	95.8	38.3
うち針葉樹合板	2,481	2,450	98.8	97.8
うち構造用合板	2,228	2,233	100.2	89.1

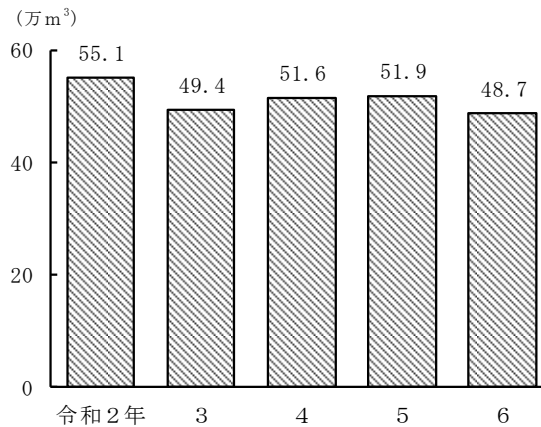
オ 特殊合板生産量

特殊合板生産量は48万7千 $m^3$ で、前年に比べ3万2千 $m^3$ （6.2%）減少した（表15、図12）。

表15 特殊合板生産量

区 分	令和5年	6	対前年比
	千 $m^3$	千 $m^3$	%
特殊合板生産量	519	487	93.8

図12 特殊合板生産量の推移



カ LVL工場数

LVL工場数は10工場で、前年に比べ5工場（33.3%）減少した（表16）。

表16 LVL工場数（各年12月31日現在）

区 分	令和5年	6	対前年比
	工場	工場	%
LVL工場	15	10	66.7

キ LVL生産量

LVL生産量は20万8千 $m^3$ で、前年に比べ2万 $m^3$ （8.8%）減少した。

これを用途別にみると、構造用が11万7千 $m^3$ で、前年に比べ2万7千 $m^3$ （18.7%）減少し、その他が9万1千 $m^3$ で、同7千 $m^3$ （8.3%）増加した（表17）。

表17 LVL生産量

区 分	単位：千 $m^3$		
	計	構造用	その他
令和5年	228	144	84
6	208	117	91
対前年比 (%)	91.2	81.3	108.3
構成比 (%)			
令和5年	100.0	63.2	36.8
6	100.0	56.3	43.8

### (3) 木材チップ

#### ア 木材チップ工場数

木材チップ工場数は1,073工場で、前年に比べ46工場(4.1%)減少した。

これを専門・兼営区分別にみると、「木材チップ専門工場」は318工場で、前年に比べ9工場(2.8%)、「製材又は合単板工場等との兼営工場」は755工場で、同37工場(4.7%)それぞれ減少した(表18)。

表18 専門・兼営区分別木材チップ工場数  
(各年12月31日現在)

単位：工場			
区 分	計	木材チップ 専門工場	製材又は合単板工場等 との兼営工場
令和5年	1,119	327	792
6	1,073	318	755
対前年比(%)	95.9	97.2	95.3
構 成 比 (%)			
令和5年	100.0	29.2	70.8
6	100.0	29.6	70.4

#### イ 木材チップ用素材入荷量

木材チップ用素材入荷量は385万6千 $m^3$ で、前年に比べ61万5千 $m^3$ (13.8%)減少した。

これを国産材、輸入材別にみると、大部分を占める国産材は385万6千 $m^3$ で、前年に比べ61万1千 $m^3$ (13.7%)減少した(表19、図13)。

図13 木材チップ用素材入荷量の推移

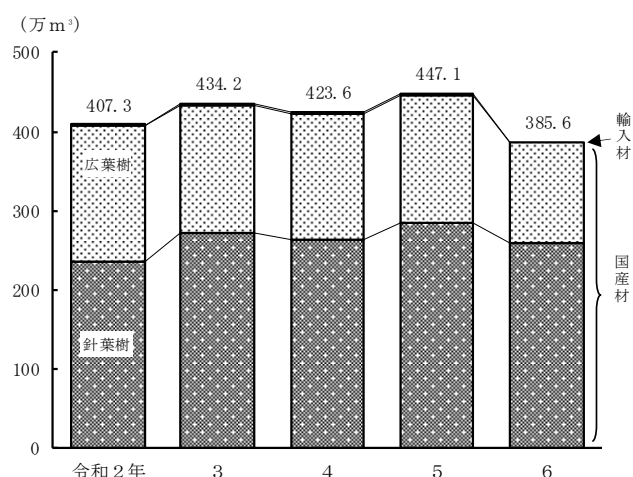


表19 材種別木材チップ用素材入荷量

単位：千 $m^3$										
区 分	計	国 産 材			輸 入 材					
		小計	針葉樹	広葉樹	小計	南洋材	米材	北洋材	ニュージー ラント材	その他
令和5年	4,471	4,467	2,852	1,615	4	-	x	-	x	-
6	3,856	3,856	2,597	1,259	0	-	-	-	0	-
対前年比(%)	86.2	86.3	91.1	78.0	0.0	nc	x	nc	x	nc
構 成 比 (%)										
令和5年	100.0	99.9	63.8	36.1	0.1	-	x	-	x	-
6	100.0	100.0	67.3	32.7	0.0	-	-	-	0.0	-

注：本調査においては、木材チップ製造用素材入荷量は木材チップ用の素材需要量(素材供給量)と一致する。

ウ 木材チップ生産量

木材チップ生産量は445万5千tで、前年に比べ80万5千t（15.3%）減少した。

これを原材料別にみると、素材(原木)は193万9千tで、前年に比べ47万3千t（19.6%）、工場残材は179万4千tで、同28万7千t（13.8%）、解体材・廃材は67万7千tで、同4万5千t（6.2%）それぞれ減少し、林地残材は4万5千tで、前年と同数だった。

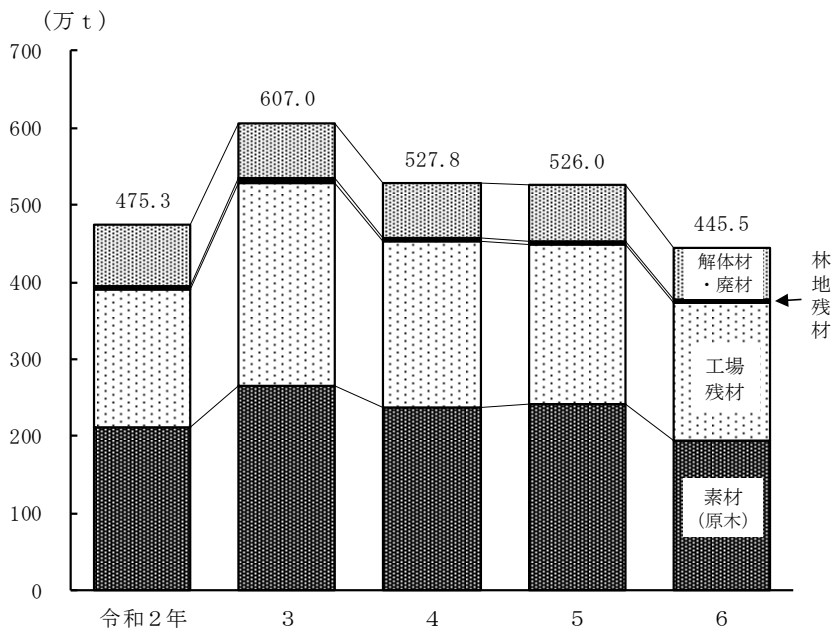
また、針葉樹・広葉樹別にみると、針葉樹は300万tで、前年に比べ54万5千t（15.4%）、広葉樹は77万8千tで、同21万5千t（21.7%）それぞれ減少した（表20、図14）。

表 20 木材チップ生産量

区 分	令和5年	6	対前年比	構成比
	千 t	千 t	%	%
木材チップ生産量	5,260	4,455	84.7	100.0
原材料別				
素材（原木）	2,412	1,939	80.4	43.5
工場残材	2,081	1,794	86.2	40.3
林地残材	45	45	100.0	1.0
解体材・廃材	722	677	93.8	15.2
針葉樹・広葉樹別				
針葉樹	3,545	3,000	84.6	-
広葉樹	993	778	78.3	-

注：針葉樹・広葉樹別には解体材・廃材を含んでいない。

図 14 原材料別木材チップ生産量の推移



(4) 集成材及びCLT

ア 集成材及びCLT工場数

集成材工場数は135工場で、前年に比べ8工場（5.6%）減少した。  
CLT工場数は9工場で、前年に比べ1工場（10.0%）減少した（表21）。

表21 集成材及びCLT工場数  
（各年12月31日現在）

単位：工場

区 分	集成材工場	CLT工場
令和5年	143	10
<b>6</b>	<b>135</b>	<b>9</b>
対前年比（%）	94.4	90.0

イ ラミナ消費量

ラミナ消費量は236万6千 $m^3$ で、前年に比べ42万4千 $m^3$ （21.8%）増加した。  
これを用途別にみると、集成材用は233万5千 $m^3$ で、前年に比べ42万1千 $m^3$ （22.0%）、  
CLT用は3万1千 $m^3$ で、同3千 $m^3$ （10.7%）それぞれ増加した（表22）。

表22 ラミナ消費量

単位：千 $m^3$

区 分	計	集成材用	CLT用
令和5年	1,942	1,914	28
<b>6</b>	<b>2,366</b>	<b>2,335</b>	<b>31</b>
対前年比（%）	121.8	122.0	110.7
構成比（%）			
令和5年	100.0	98.6	1.4
<b>6</b>	<b>100.0</b>	<b>98.7</b>	<b>1.3</b>

ウ 集成材生産量

集成材生産量は175万4千 $m^3$ で、前年に比べ7万9千 $m^3$ （4.7%）増加した。  
これを用途別にみると、構造用が167万7千 $m^3$ で、前年に比べ8万7千 $m^3$ （5.5%）増加した（表23）。

表23 集成材生産量

単位：千 $m^3$

区 分	計	構造用				その他
		小計	大断面	中断面	小断面	
令和5年	1,675	1,590	33	642	915	85
<b>6</b>	<b>1,754</b>	<b>1,677</b>	<b>25</b>	<b>650</b>	<b>1,002</b>	<b>77</b>
対前年比（%）	104.7	105.5	75.8	101.2	109.5	90.6
構成比（%）						
令和5年	100.0	94.9	2.0	38.3	54.6	5.1
<b>6</b>	<b>100.0</b>	<b>95.6</b>	<b>1.4</b>	<b>37.1</b>	<b>57.1</b>	<b>4.4</b>

エ CLT生産量

CLT生産量は2万1千 $m^3$ で、前年に比べ3千 $m^3$ （16.7%）増加した。

これを用途別にみると、構造用が1万9千 $m^3$ で、前年に比べ3千 $m^3$ （18.8%）増加した（表24）。

表 24 CLT生産量

単位：千 $m^3$

区 分	計	構造用	その他
令和5年	18	16	2
6	21	19	2
対前年比（%）	116.7	118.8	100.0
構 成 比（%）			
令和5年	100.0	88.9	11.1
6	100.0	90.5	9.5